

改定蒲田駅周辺地区グランドデザインの素案について

1 目的

「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」の改定にあたり、区民意見公募手続（パブリックコメント）を実施する。計画の意思決定前に計画案を公表し、広く区民意見を反映させることで、計画案の充実を図るとともに、区民に開かれた区政の実現を目指すことを目的とする。

2 実施概要

(1) 閲覧・募集期間

令和4年1月17日（月）から2月4日（金）まで

(2) 素案

①改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン（素案）【概要】・・・別紙1

②改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン（素案）【本編】・・・別紙2

(3) 閲覧場所

鉄道・都市づくり課、区政情報コーナー、各特別出張所、ふれあいはすぬま、北蒲広場、大田文化の森（情報館）大田区産業プラザPi0、各区立図書館

(4) 意見提出方法

郵送、ファクシミリ、電子申請、鉄道・都市づくり課へ持ち込み

(5) 区民周知方法

区報1月合併号及び区ホームページへの掲載

3 区民説明会

(1) 開催日時及び会場

日時：①令和4年1月28日（金） 午後6時から午後8時まで

②令和4年1月29日（土） 午前10時から午前12時まで

会場：大田区役所 本庁舎2階 201・202会議室

(2) 定員

各回40名（事前申込制）

※令和4年1月14日、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、参集型の説明会に代え、説明動画の配信にすることとした。

本グランドデザインは、区全域の都市計画の基本的な方針を示す「大田区都市計画マスタープラン」における地域別方針を具体化する計画として、まちの将来像を描くと共に、地域住民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進めていくための目標や方策を示したものです。平成22(2010)年策定から10年が経過するなか、社会やまちの状況の変化に対応し、蒲田が将来に渡って持続的に発展していくため、改定素案を作成しました。

1章 地区の位置づけ・役割・まちの変化

(上位・関連計画における位置付け)
 ・新都市生活創造域、枢要な地域の拠点
(東京都都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針)
 ・広域拠点域、中心拠点 (大田区都市計画マスタープラン)

(広域的な視点からみた地区の役割)
 ・広域的な拠点性を高める機能 } の強化・充実が
 ・鉄道沿線の日常的な生活を支える機能 } 求められている

(蒲田を取り巻く状況の変化)
 ・小売店舗や事業所、工場の減少 ・夜間人口、集合住宅の増加
 ・駅乗降客数や羽田空港の旅客数、外国人の増加 など

2章 まちの特徴と課題

3章 まちの将来像

まちの将来像
 「にぎわいあふれる多文化都市、
 誰もが安心して気持ちよく過ごせる
 人にやさしい蒲田」

4章 拠点・軸・エリアのまちづくり (※詳細は裏面)

2つの駅前拠点
 まちを繋ぐ都市骨格軸
 5つのエリア

の役割や特徴に応じた
 取組(アクション)を
 横断的に行う

5章 まちづくりの目標と分野別方針

目標1.
文化・交流・にぎわいを生み出す
「活動」の創出

目標2.
地域の価値を高める
「空間」の充実

目標3.
安心して快適に過ごせる
「環境」の向上

- 1.【商業】
いきいき元気の商業のまち
- 2.【産業・ビジネス】
産業やビジネスが育つまち
- 3.【暮らし】
多様な人々が快適に暮らせるまち
- 4.【観光】
国内外と繋がり、何度も訪れたいまち
- 5.【駅・駅前広場】
ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場
- 6.【歩行者空間】
歩いてめぐり楽しめるまち
- 7.【交通】
様々な手段で快適に移動できるまち
- 8.【建物】
建物の更新や活用が進むまち
- 9.【防災】
災害に強いまち
- 10.【ユニバーサルデザイン】
誰もが使いやすい人にやさしいまち
- 11.【美化・景観】
個性と魅力のあるまち
- 12.【自然・環境】
自然を感じ、環境にやさしいまち
- 13.【防犯】
安全・安心なまち

6章 まちづくりの取組(アクション)

1-	① 多様なニーズに応える商業の集積と担い手支援 ② 商業やまちの魅力を広げるイベント等の拡充	7-	① 地域住民の移動を支え利便性の高い自転車駐車場の整備 ② 自転車や歩行者等が安全に移動できる自転車走行環境の整備 ③ 自由な移動を支える先端技術と交通モードの活用
2-	① 立地特性を活かした業務機能の誘導 ② 経済活動の活性化を図る産業支援の促進 ③ ビジネスパーソンが快適に働くことができる環境の充実	8-	① 沿道のにぎわいが連続する複合市街地の形成 ② 老朽建築物の建替えと公共施設や街区の再編によるまちの更新 ③ 人々が留まり、にぎわいを生むオープンスペースの整備
3-	① 多様な人々の暮らしを支える施設・サービスの誘導 ② 地区への愛着を育む学びと交流機能の誘導 ③ 豊かな心と文化を育む文化活動の充実 ④ 人々の支えあいを育む交流機会の充実と参加促進	9-	① 災害時にも都市活動の継続が可能な強靱性の高い拠点の形成 ② 首都直下地震等への対策の推進 ③ 台風・豪雨による都市型水害対策の推進 ④ 帰宅困難者等を受け入れる施設や体制の確保 ⑤ 地域住民の防災意識の向上
4-	① 来街者を惹きつけるプロモーションの充実 ② 来街者を迎え入れる体制の充実 ③ 来街者の快適な滞在を支える施設の充実	10-	① 誰にとっても分かりやすいサインの整備 ② 誰もがスムーズに移動できるバリアフリー化の推進 ③ 人々の多様性を認め受け入れるダイバーシティの推進 ④ 先端技術を駆使した環境の整備
5-	① 区内の円滑な移動と広域的な利便を生む新空港線整備の推進 ② 駅東西の分断を解消し、鉄道の乗換えを円滑にするJR・東急蒲田駅東西自由通路の整備 ③ まちの円滑な移動を支えるJR・東急蒲田駅北側通路の整備 ④ まちの顔となる駅・駅ビルの一体的な機能更新 ⑤ 駅と駅を繋ぐ快適な乗換え空間の形成 ⑥ 多様な移動手段や駅とまちを繋ぐ駅前広場の機能向上	11-	① みんなで綺麗なまちをつくる美化活動 ② 蒲田らしい特性や魅力を活かした景観の育成
6-	① 歩行者の円滑な移動と多様な活動を支えるストリートの創出 ② 緑と潤いのある呑川沿いの散策路整備 ③ 歩行者の安全とまちのにぎわいを創出する駐車場の適正化	12-	① 地域とつくる緑あふれる都市環境の創出 ② 緑とにぎわいを感じる公園等の充実 ③ まち全体で取り組む環境負荷の低減 ④ 暑い日もまちなかで快適に過ごせるための暑さ対策 ⑤ 潤いを創出する呑川の水質改善
		13-	① 地域の方でつくる安全な環境の確保 ② 自転車マナーアップと放置自転車対策の推進

7章 JR・東急蒲田駅前拠点の施設整備

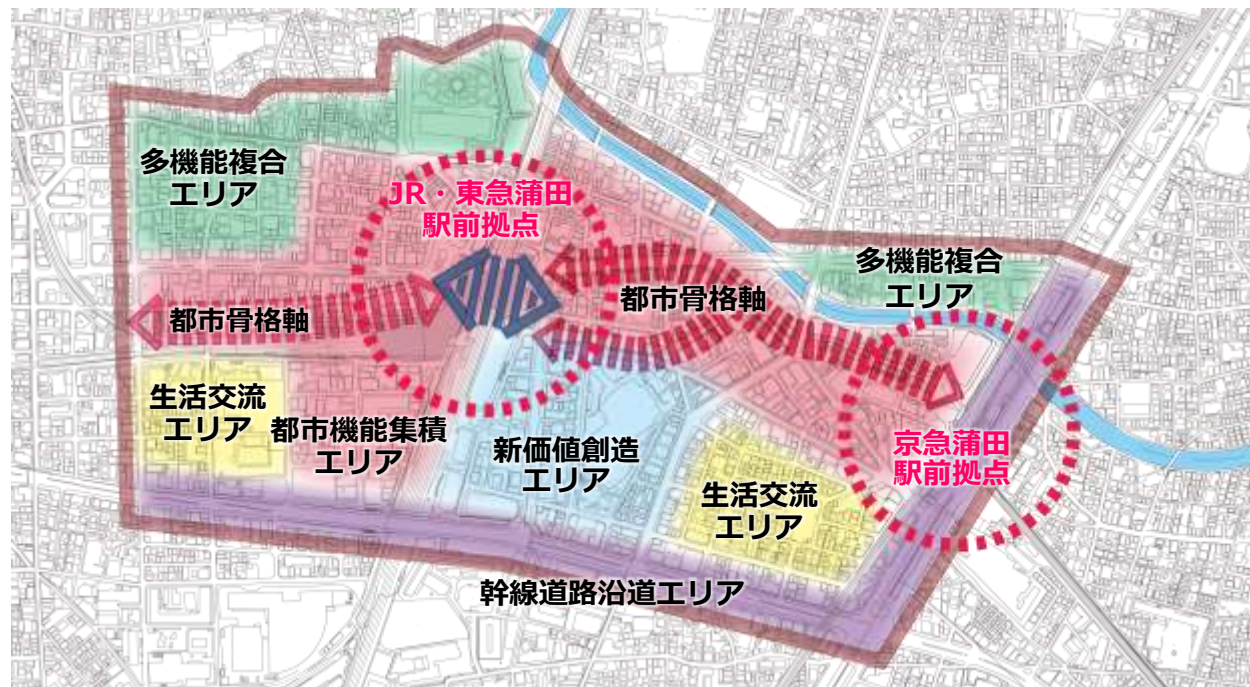
基盤施設が抱える課題 ・ 課題解決の方向性

8章 グランドデザインの実現に向けて

協働によるまちづくりの推進 ・ グランドデザインの運用の考え方

第4章 拠点・軸・エリアのまちづくり

各拠点・軸・エリアが担う役割や特徴を踏まえ、各場所で特に重点的に取り組む方策を示します。



地区内拠点

都市骨格軸



JR・東急蒲田駅前拠点

国内外やまちを繋ぎ、利便性が高くまちの顔となる
交通結節機能の強化

- (1) 駅の東西、駅とまちを円滑に繋ぐ歩行者空間の創出
- (2) 公共交通の乗換えを支え、にぎわい溢れる駅前空間の創出
- (3) 交通結節点にふさわしい都市機能の強化



京急蒲田駅前拠点

人々をまちに呼び込む、玄関口にふさわしい
来街者を魅了する駅前拠点の形成

- (1) 国内外からの来街者を迎え入れる玄関口の形成
- (2) 調和の取れたまちなみと安全で快適な歩行者空間の形成



都市骨格軸

商業などが連続し、にぎわいの広がりをつくる
歩いて楽しいストリートの形成

- (1) 沿道のにぎわいが連続するまちなみの形成
- (2) 道路と沿道が一体となったにぎわい溢れるストリートの創出
- (3) 安心して快適に拠点やまちを繋ぐ歩行者環境の形成

エリア



都市機能集積エリア

様々な都市機能が集積し、人々を惹きつけ・留める
にぎわいの創出

- (1) 商業・業務を中心に多様な機能が集積する複合市街地の形成
- (2) 多様な活動が展開され、にぎわい溢れる空間の創出
- (3) 安全で環境にやさしい市街地の形成



新価値創造エリア

ビジネス・文化などが集約し、人々の活発な活動・交流による
新たな価値の創造

- (1) 人々や企業の交流を育み新たな価値を生み出す市街地の形成
- (2) 集い・学び・交流が生まれる空間の創出
- (3) 安全で環境にやさしい市街地の形成



多機能複合エリア

周辺住宅地と本地区を繋ぎ、水と緑を感じる
地域に根差した活力の創出

- (1) 多様なライフスタイルに対応する市街地の形成
- (2) 水と緑が感じられる生活環境の形成



生活交流エリア

学びや交流の場となる学校や公園などを中心として
地域への愛着や親しみの育成

- (1) 人々が交流し、繋がりを育む生活環境の形成
- (2) 安全で安心して暮らせるまちづくりの推進



幹線道路沿道エリア

広域的な移動を支え、街路樹や災害に強い建物が立ち並び
安全で快適な沿道環境の整備

- (1) 安全で安心な幹線道路沿道の整備促進
- (2) 快適で円滑な移動を支える沿道環境の創出

改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン（素案）

蒲田駅周辺地区グランドデザインの改定について

蒲田駅周辺地区は、空の玄関である羽田空港に近接し、鉄道やバスなど主要交通が結節する空港と都市間をつなぐ広域的に重要な役割を担う中心拠点であり、大田区の中心的な商業・業務地として発展してきました。

大田区では、地区が内包する課題や状況の変化に対応するため、平成 22（2010）年に「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」を策定し、将来につなげていくまちづくりを進めてきました。

まちづくりが進展する一方、東日本大震災の発生や、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催、訪日外客数の増加、技術革新、新型コロナウイルス感染症の流行など社会情勢は日々変化し、都市間競争も激化しています。また、線路を挟んだ東西市街地の連絡性強化や駅前広場の整備、建物の更新など、今なお大きな課題を抱えていることから、変化し続ける社会やまちの状況に対応したまちづくりを推進し、首都圏の広域的な拠点として将来に渡って持続的に発展していくため、「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」の改定に向け検討を進めています。

令和元年度より検討を進め、区民参画や専門部会で頂いた意見を踏まえ、蒲田駅周辺地区グランドデザインの「素案」を作成しました。

今後、素案に対する意見募集を行い、改定に向けてさらに検討を深めていきます。

目次

第1章	ランドデザインの改定にあたって	01
1-1.	ランドデザインの役割	02
1-2.	ランドデザインの対象区域	02
1-3.	上位・関連計画における位置付け	03
1-4.	広域的な視点からみた蒲田駅周辺地区の役割	05
1-5.	ランドデザイン改定の目的と背景	06
第2章	まちの特徴と課題	11
2-1.	まちの特徴	12
2-2.	まちの課題	14
第3章	まちの将来像	17
3-1.	まちの将来像	18
3-2.	将来像の実現に向けて	19
第4章	拠点・軸・エリアのまちづくり	21
4-1.	拠点・軸・エリアのまちづくり	22
	地区内拠点【JR・東急蒲田駅前拠点】	交通結節機能の強化
	【京急蒲田駅前拠点】	来街者を魅了する駅前拠点の形成
	都市骨格軸【都市骨格軸】	歩いて楽しいストリートの形成
	エリア【都市機能集積エリア】	にぎわいの創出
	【新価値創造エリア】	新たな価値の創出
	【多機能複合エリア】	地域に根差した活力の創出
	【生活交流エリア】	地域への愛着や親しみの育成
	【幹線道路沿道エリア】	安全で快適な沿道整備
第5章	まちづくりの目標と分野別方針	41
5-1.	まちづくりの目標	42
	目標1 文化・交流・にぎわいを生み出す「活動」の創出	
	目標2 地域の価値を高める「空間」の充実	
	目標3 安心して快適に過ごせる「環境」の向上	

5-2.	まちづくりの分野別方針	43
1	【商業】	いきいき元気な商業のまち
2	【産業・ビジネス】	産業やビジネスが育つまち
3	【暮らし】	多様な人々が快適に暮らせるまち
4	【観光】	国内外と繋がり、何度も訪れたくなるまち
5	【駅・駅前広場】	ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場
6	【歩行者空間】	歩いてめぐり楽しめるまち
7	【交通】	様々な手段で快適に移動できるまち
8	【建物】	建物の更新や活用が進むまち
9	【防災】	災害に強いまち
10	【ユニバーサルデザイン※】	誰もが使いやすく人にやさしいまち
11	【美観・景観】	個性と魅力のあるまち
12	【自然・環境】	自然を感じ、環境にやさしいまち
13	【防犯】	安全・安心なまち
第6章	まちづくりの取組（アクション）	47
6-1.	まちづくりの取組（アクション）	48
6-2.	まちづくりの取組（アクション）に関する 実施場所・実施手順・実施主体	64
第7章	JR・東急蒲田駅前拠点の施設整備	67
7-1.	基盤施設の整備に向けて	68
7-2.	基盤施設が抱える課題	68
7-3.	課題解決の方向性	68
7-4.	課題解決の考え方	69
7-5.	駅周辺基盤施設の一体的整備	75
第8章	ランドデザインの実現に向けて	77
8-1.	協働によるまちづくりの推進	78
8-2.	ランドデザインの運用の考え方	80
参考資料		参考

本文中において、特に解説が必要な語句は、末尾に「※」を付していますので、
巻末にある参考資料の用語集を参照してください。

1

ランドデザインの
改定にあたって

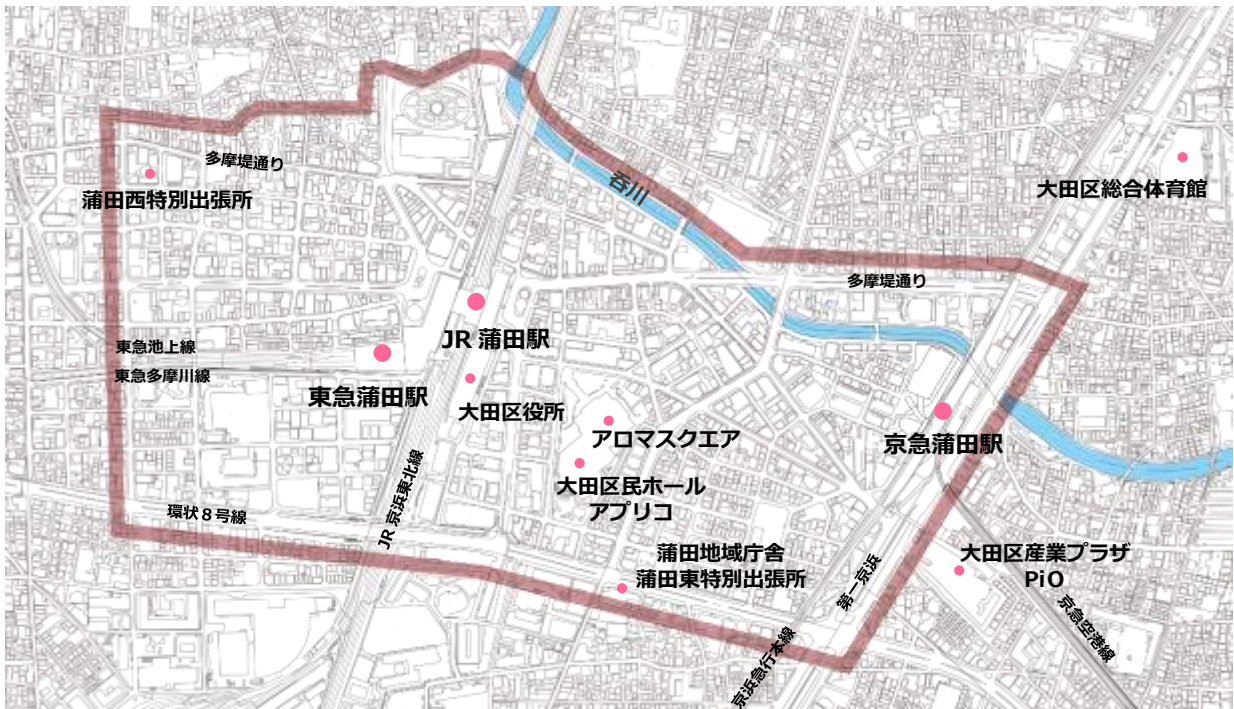
1-1. グランドデザインの役割

まちづくりに当たっては、地区が内包する課題や周辺状況の変化に応じて、都市計画や産業、観光、文化、環境保全など幅広い分野の取組を総合的に進めていく必要があります。

蒲田駅周辺地区グランドデザインは、地域住民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進めていくため、地区の特徴を捉え、課題を整理した上で、地区の将来像を描くとともに、その実現に向けた方針と幅広い分野の具体的な取組を示していきます。

1-2. グランドデザインの対象区域

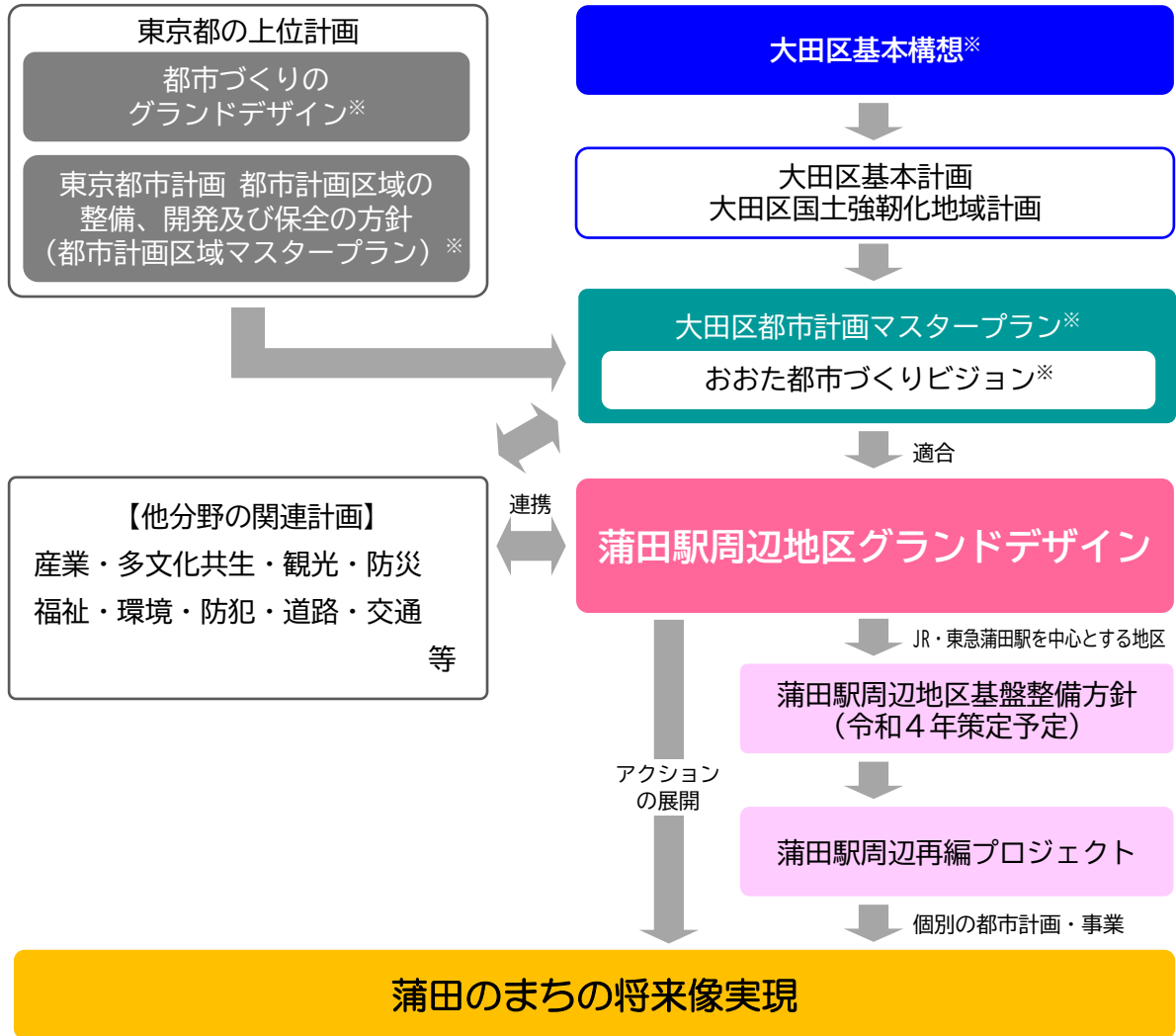
グランドデザインの対象区域は、JR・東急蒲田駅を中心とする京急蒲田駅を含む約 80ha とします。



東は第一京浜の沿道、西は蓮沼駅手前付近、南は環状8号線の沿道、北は呑川及び多摩堤通り沿道を対象範囲としますが、対象区域外の施設や大田区の用途地域[※]の指定状況等を考慮します。

1-3. 上位・関連計画における位置付け

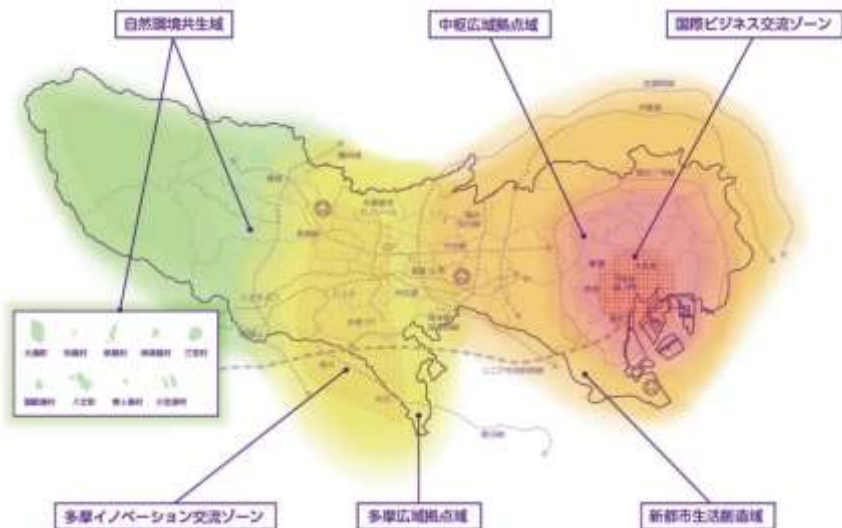
グランドデザインは、区全域の都市計画の基本的な方針を示す「大田区都市計画マスタープラン※」に即し、蒲田駅周辺地区を対象として、よりきめ細かな方針や取組を定めたものです。



都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）※

地域特性等を踏まえ、4つの地域区分及び2つのゾーンを設定し、広域的な一定の圏域ごとの将来イメージを示しています。

蒲田駅周辺地区は、「新都市生活創造域」の「枢要な地域の拠点」に位置付けられています。



出典：東京都 都市計画区域マスタープラン※

(新都市生活創造域)

<誘導の方向> (抜粋)

主要な駅周辺では、大規模な商業、医療、高齢者福祉、子育て支援施設など、都民の生活を支え、柔軟な働き方・暮らし方に対応する都市機能が集積した地域の拠点の形成を図る。また、新型コロナ危機を契機とした都市づくりの観点から、共用スペースを備えたシェアオフィスやサテライトオフィス[※]等、オフィスワークとテレワークが補完的に機能するような場の整備や、ニーズに応じた柔軟な用途転用、交通ネットワークの強化などを進め、職住融合の拠点の育成を図る。

(特色ある地域の将来像)

<蒲田地区> (抜粋)

- ・ J R 蒲田駅周辺では、羽田空港と隣接する立地をいかし、商業の活性化や、交通結節点[※]としての道路や駅前広場などの基盤の機能向上が図られ、利便性が高く快適で、国内外の来街者でにぎわう活気あふれる重要な地域の拠点を形成
- ・ 新空港線[※]の整備などにより、羽田空港へのアクセス性の強化が推進されることを見据え、駅とまちの一体的な整備や市街地の更新が進み、国際的な産業・業務、宿泊機能が強化され、商業や観光施設等が集積した交流の拠点を形成
- ・ 京急蒲田駅西口周辺では、市街地再開発事業[※]や地区計画[※]を活用した共同建替え事業により、広場や道路などの基盤整備と、商業機能や都市型居住機能の集積が図られ、また、隣接する呑川と神社の既存の緑をいかした水と緑のネットワーク化などにより潤いある街並みを形成するとともに、建築物の建替えが進み回遊性と防災性が高まった市街地を形成



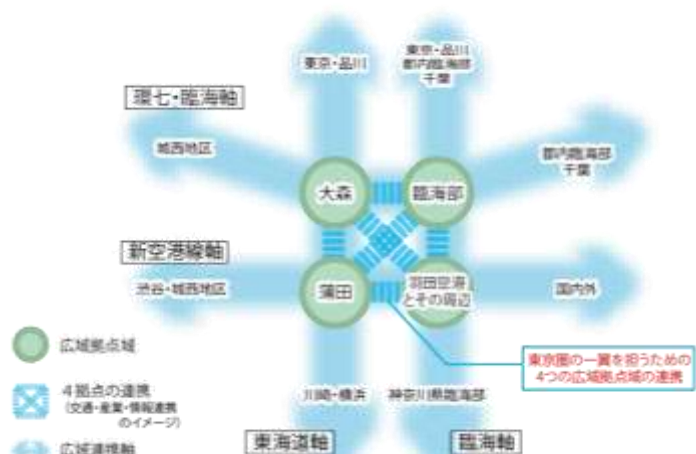
出典：東京都 都市計画区域マスタープラン[※]

大田区都市計画マスタープラン[※]

東京圏における広域交流機能としての役割と地域間交流の中心機能を担い、今後の都市づくりにおいてさらなる拠点性の強化・向上をめざす「広域拠点域」、都市機能や生活関連施設などのさらなる集積を図り、広域連携・交流の役割を担う拠点として、都市づくりを強化していく「中心拠点」に位置付けられている。

(広域でみた大田区の将来都市構造)

- ・ 広域拠点域が、地域特性を活かし個性ある拠点域を形成するとともに、拠点域同士をつなぐネットワークの強化により有機的な連携を高めまます。さらに、周辺区市と連携し東京圏全体の成長に寄与することで、大田区の更なる発展をめざします。
- ・ 4 拠点域の連携については、広域連携軸を構成する道路・鉄道等の強化に加え、その他の道路や公共交通、さらに新技術などを活用し、最適な手段を検討します。



1-4. 広域的な視点からみた蒲田駅周辺地区の役割

まちの中心となる JR・東急蒲田駅及び京急蒲田駅を有する本地区は、都市間の連携や交流の促進及び強化に資する広域交通ネットワークである東海道軸と新空港線軸の結節点に位置しています。大森駅周辺、HANEDA GLOBAL WINGS（羽田グローバルウイングズ）と並ぶ大田区の『中心拠点』として、都市機能や生活関連施設などのさらなる集積を図り、広域連携・交流の中心的な役割を担う拠点として、都市づくりを推進していく事が求められています。

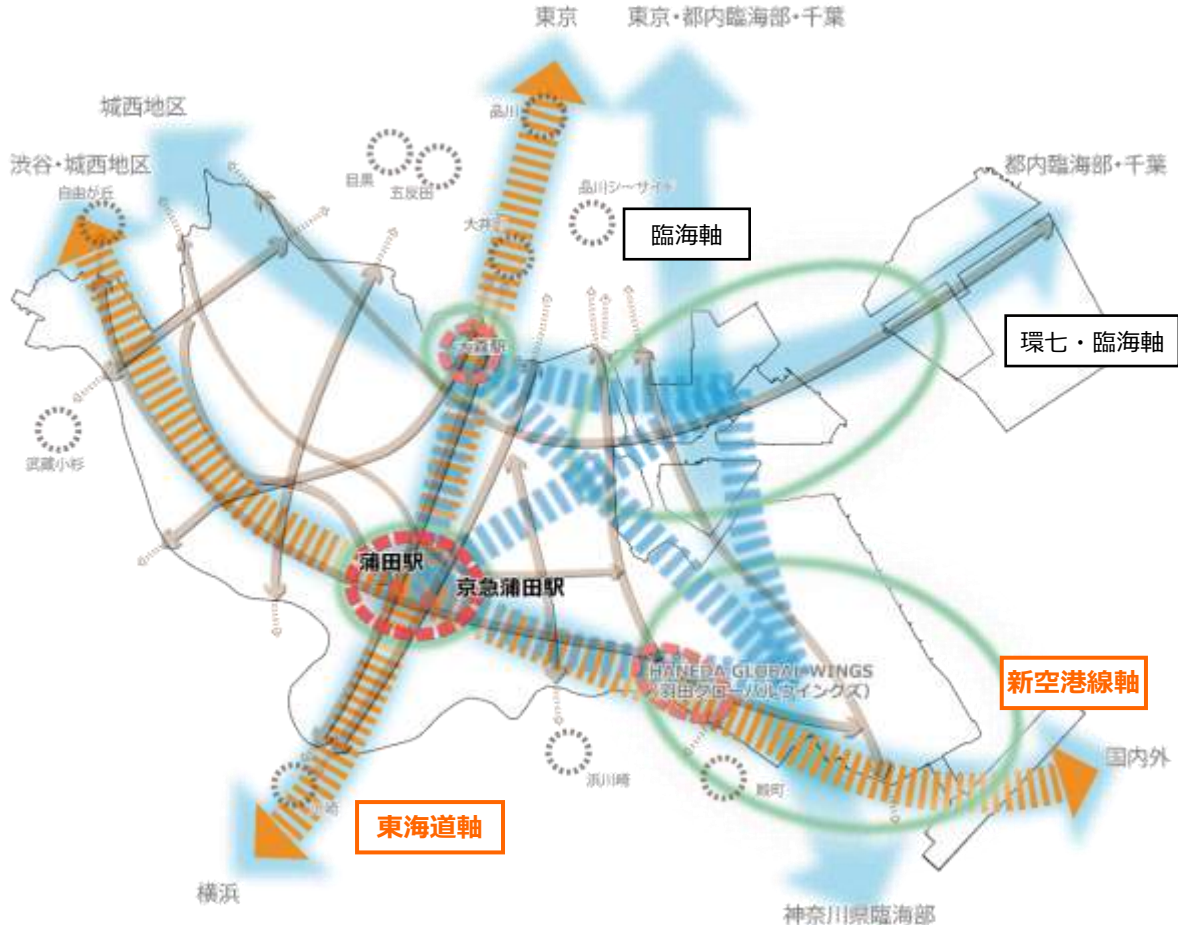


図 将来都市構造図 出典:大田区都市計画マスタープラン*より作図

<ul style="list-style-type: none"> 中心拠点 物都庁における拠点 拠点交通軸 広域連携軸 広域拠点域 4拠点の連携 	<p>中心拠点の考え方</p> <p>商業・業務・公共など主要な都市機能、鉄道・バスなど主要交通の重要な結節機能などが集中して立地する地区。区内全域及び周辺区市との連携・交流の拠点となる。</p> <p>都市機能や生活関連施設などのさらなる集積を図り、広域連携・交流の役割を担う拠点として、都市づくりを強化していく。</p>
--	---

(本地区の役割)

新空港線*の整備により新たな広域連携軸（新空港線軸）が形成され、東京都心や羽田空港・HANEDA GLOBAL WINGS との連絡性強化が期待されるなか、本地区は、地域経済のイノベーション*と独自の都市文化を創造し、安全かつ持続的な成長を牽引する必要があります。

交通結節点*としての拠点性・利便性を活かすとともに未来のライフスタイルへの対応や先端技術の活用も意識しながら、『広域的な拠点性を高める機能』と『鉄道沿線の日常生活を支える機能』の強化・充実を両輪で進めていくことが必要です。

1-5. グランドデザイン改定の目的と背景

平成 22（2010）年のグランドデザインの策定から 10 年が経過し、まちづくりは着実に進展している一方で、地区を取り巻く状況に変化が生じています。また、線路を挟んだ東西市街地の連絡性強化など解決すべき課題が今なお残っています。

変化し続ける社会やまちの状況に対応した計画的なまちづくりを推進し、首都圏の広域的な拠点としての役割を担うとともに、蒲田が将来に渡って持続的に発展していくため、グランドデザインの改定を行います。

○目標時期

上位計画である大田区都市計画マスタープラン※等との整合を図る観点から、各種取組の実施時期を短期（5 年）・中期（10 年）・長期（20 年）に区分し、2040 年代を見据えた計画とします。

【まちづくりの経緯】

大田区は、昭和 22（1947）年に大森区と蒲田区が合併して誕生して以来、着実な発展を遂げてきました。

蒲田駅周辺地区は、戦災復興の土地区画整理事業※による都市基盤の整備とともに、建物の建築が進みましたが、事業完了から約 50 年経過し、建物等の更新時期を迎えています。

昭和 22(1947)	■大森区と蒲田区が合併して「大田区」が誕生
昭和 24(1949)	■多摩川大橋開通
昭和 27(1952)	■羽田空港が米軍から返還され「東京国際空港」に
昭和 37(1962)	■環状 8 号線蒲田陸橋開通 ■蒲田駅東口駅ビル完成
昭和 39(1964)	■東京モノレール開通
昭和 40(1965)	■大田区体育館開館
昭和 43(1968)	■東急プラザ蒲田完成
昭和 45(1970)	■蒲田駅西口駅ビル完成
昭和 46(1971)	■戦災復興土地区画整理事業※「蒲田駅西口」「蒲田駅東口」換地完了
昭和 53(1978)	■新東京国際空港開港、羽田空港から国際線を移転
昭和 59(1984)	■新六郷橋開通 ■大森駅ビル完成
平成元(1989)	■東京都中央卸売市場「大田市場」完成
平成5(1993)	■京浜急行電鉄空港線「羽田駅」開業 ■羽田空港新旅客ターミナル・東京モノレール「羽田駅」「羽田空港駅」開業
平成7(1995)	■大田スタジアム開設
平成8(1996)	■大田区産業プラザ(PiO)開館
平成 10(1998)	■区役所本庁舎蒲田へ移転 ■大田区民ホール「アプリコ」開館 ■京浜急行「羽田空港駅」開業
平成 13(2001)	■大田文化の森開館
平成 16(2004)	■羽田空港第 2 ターミナル開設
平成 19(2007)	■大森ふるさとの浜辺公園開園



菖蒲橋付近から見た蒲田駅方面
昭和 27 年



蒲田駅東口前の広場
昭和 35 年



蒲田駅西口前
昭和 36 年

平成 22 (2010) 年のグランドデザイン策定以降、京急蒲田駅周辺では、京浜急行線連続立体交差事業※、市街地再開発事業※及び街路整備が完了し、JR・東急蒲田駅周辺では、西口駅前広場の初期整備が完了するなど着実にまちづくりが進められています。

平成 22(2010)	■「蒲田駅周辺地区グランドデザイン」の策定 ■羽田空港国際線ターミナルの供用開始
平成 24(2012)	■大田区総合体育館開館 ■京浜急行線連続立体交差事業※の事業区間全線高架化(※1) ■蒲田立体(南蒲田交差点)の供用開始
平成 25(2013)	■蒲田駅周辺再編プロジェクトの策定
平成 26(2014)	■さかさ川通りの供用開始(※2)
平成 27(2015)	■京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業※完了(※3)
平成 28(2016)	■蒲田駅東口駅前広場都市計画変更・地下自転車駐車場都市計画決定(※4)
平成 30(2018)	■蒲田駅西口駅前広場初期整備完了(※4)
令和 2 (2020)	■羽田イノベーションシティ(羽田空港跡地第 1 ゾーン第一事業) まち開き

(まちづくりの進捗 1) ※1

平成 24 年の京浜急行線連続立体交差事業※による高架化に伴い、地域の回遊性が向上され、踏切事故や交通渋滞の解消など多方面にわたって大きな効果がもたらされました。



京浜急行線連続立体交差事業※



国家戦略道路占用事業※の認定
「さかさ川通り」

(まちづくりの進捗 2) ※2

平成 26 年に「さかさ川通り」が整備され、平成 27 年に国家戦略道路占用事業※に認定されたことにより、地域の方々が中心となり街路空間などを活用したイベントを開催するなど、にぎわい創出につながっています。

(まちづくりの進捗 3) ※3

連続立体交差事業※を契機として、平成 27 年に京急蒲田西口駅前地区第一種市街地再開発事業※や駅前広場等が整備され、蒲田地域の玄関口にふさわしい駅前商業地としてのにぎわいや、駅前立地の利便性を活かした居住空間がもたらされました。



京急蒲田西口駅前地区
第一種市街地再開発事業※



蒲田駅西口駅前広場初期整備
(イメージ)

(まちづくりの進捗 4) ※4

JR・東急蒲田駅においては、駅前広場初期整備デザイン基本プランを策定し、東口駅前広場は平成 28 年に初期整備(地下自転車駐車場を含む)に関する都市計画決定がなされ、西口駅前広場は平成 30 年に初期整備が完了するなど、着実にまちづくりが進んでいます。

【 蒲田を取り巻く状況の変化 】

グランドデザイン策定以降、社会的な動きやまちの変化など、蒲田を取り巻く主な動向として以下が挙げられます。

（社会的な動き）

- ・ ライフスタイルの多様化
- ・ 国際化の進展による訪日外国人数の増加
- ・ デジタル化や自動化などの急速な技術革新に伴う産業構造の変化
- ・ 東日本大震災や近年の風水害などによる、防災意識の高まり
- ・ 国土交通省交通政策審議会答申第198号（平成28年4月20日）において、「国際競争力の強化に資する鉄道ネットワークのプロジェクト」に「新空港線※の新設」が位置付け
- ・ 「居心地が良く歩きたくなるまちなか（国土交通省）」の提言
- ・ パリ協定の採択やSDGsの提唱など、環境保全や温暖化抑制を目指した世界的な動き
- ・ 新型コロナウイルス感染症を契機とした「新しい生活様式」への移行

など

（まちの変化）

【 小売店舗数と売場面積の推移 】

本地区（※1）の小売店舗数や売場面積は減少傾向にあります。



出典：経済センサスより作成

【 土地利用状況 】

グランドデザイン区域内の事業所や工場が減少し、集合住宅は増加傾向にあります。

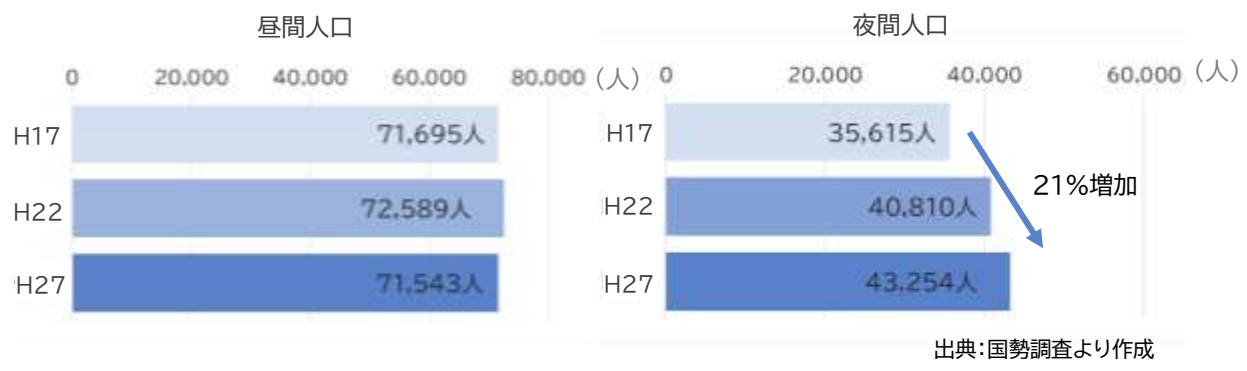


出典：土地利用現況調査より作成

（※1 「本地区」とは、主にGD対象範囲が該当している町丁目（蒲田一丁目、三丁目、四丁目、五丁目、蒲田本町一丁目、二丁目、西蒲田五丁目、六丁目、七丁目、八丁目、新蒲田一丁目）を対象としています。）

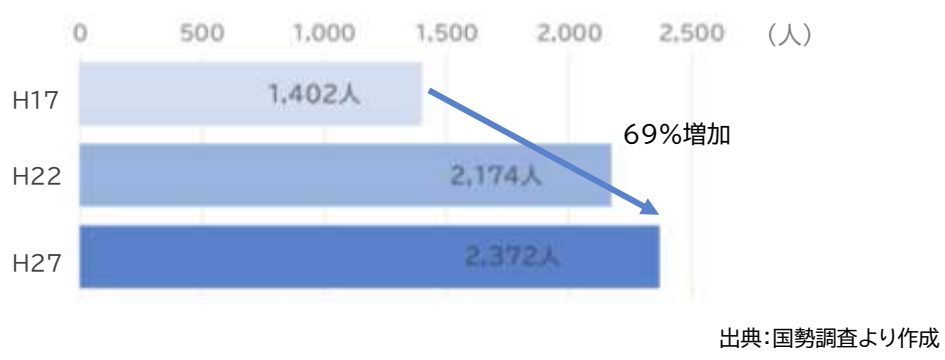
【 昼間・夜間人口の推移 】

本地区（※1）における昼間人口は横ばい傾向にあります。一方、夜間人口は住宅施設（集合住宅等）への転用に伴い、増加傾向にあります。



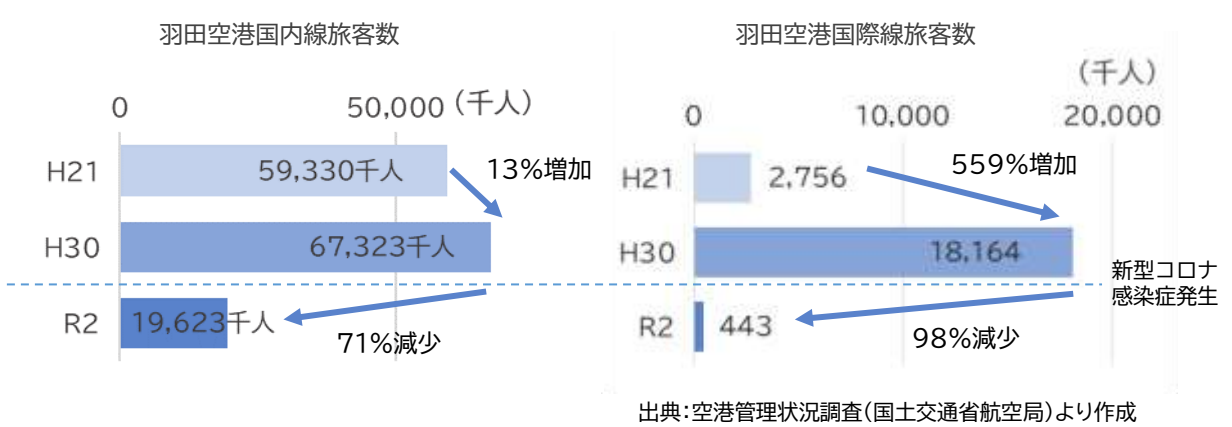
【 外国人人口の推移 】

本地区（※1）における外国人人口は増加しています。



【 羽田空港の旅客数の推移 】

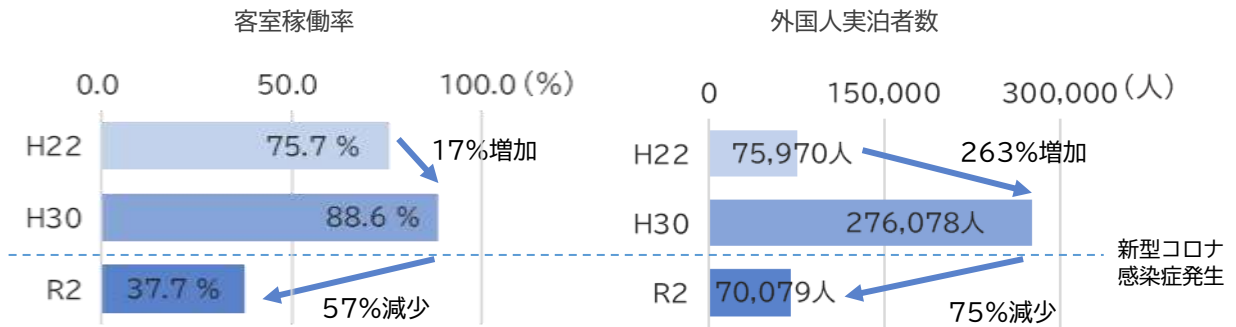
平成22年10月から国際線定期便の就航が開始され、羽田空港国際線旅客数は急増しています。



(※1 「本地区」とは、主にGD対象範囲が該当している町丁目（蒲田一丁目、三丁目、四丁目、五丁目、蒲田本町一丁目、二丁目、西蒲田五丁目、六丁目、七丁目、八丁目、新蒲田一丁目）を対象としています。)

【 宿泊施設の稼働率と外国人利用の変化 】

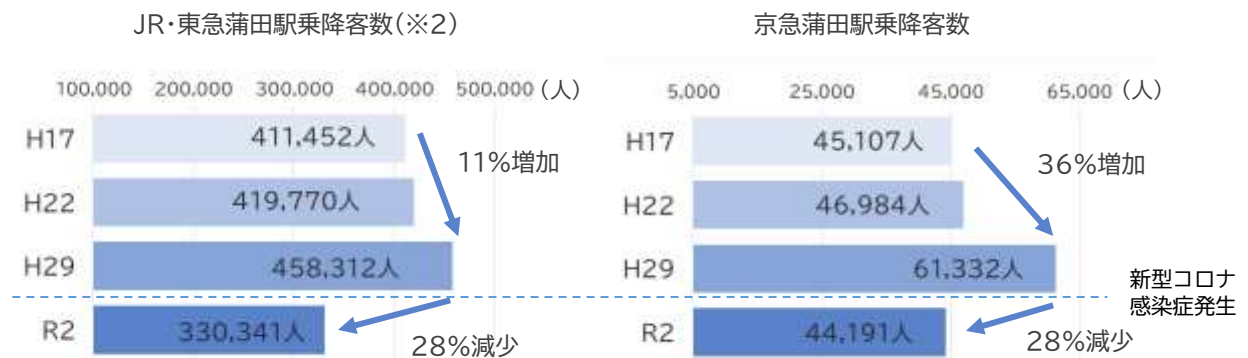
大田区における宿泊施設客室稼働率は高く、外国人の利用者も増加しています。



出典:宿泊旅行統計調査(観光庁)より作成

【 蒲田駅乗降客数の推移 】

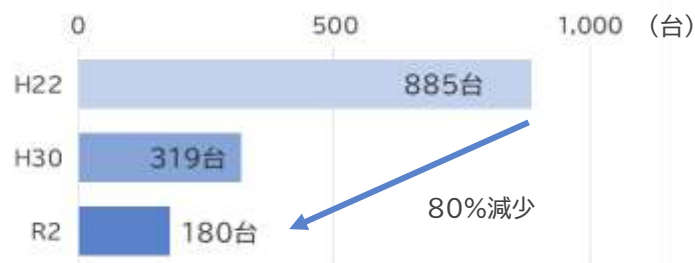
蒲田駅（JR線・東急線・京急線）における1日平均乗降客数は増加しています。



出典:東京都統計年鑑、及び各鉄道会社 HP より作成

【 JR・東急蒲田駅周辺の放置自転車台数の推移 】

駅周辺(※3)の放置自転車は減少していますが、引き続き対策を行う必要があります。



出典:東京都 都内における駅前広場自転車の現況より作成

(※2 JR・東急蒲田駅は JR 線と東急線の乗降客数の合計(JR 線は乗車のみの数値のため2倍にして算出))

(※3 駅周辺とは、駅から概ね半径 500m以内の区域を対象としています。)